



学校通信

夕陽丘 第36号



【校長挨拶】

夕陽丘高校に縁のある樹木

校長 杉山友重

第66期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

夕陽丘高校の3年間はどうか。いろいろな思い出が走馬灯のように去来していることと思います。楽しかったこと、苦しかったことなど様々な事があったと思いますが、再び巡りくることのない青春の貴重な思い出として大切にしてもらいたいと思います。

さて、本校にはさまざまな樹木が植えられていますが、その中から特に本校に縁のある樹木について、卒業にあたり皆さんに紹介します。1、2年生の皆さんにも是非知っておいてほしいと思っています。

まず、梅と松です。最初にこの二種の樹木をあげたのはもちろん本校の校章の意匠に使われているからです。このページの左上に夕陽丘高等女学校の校章、右上に夕陽丘高校の校章が描かれています。見て分かる通り、女学校、高校の校章ともに梅の花(弁)と松の葉身がデザインされています。私の知る限り、府立学校の中で梅と松を校章に使っている学校は他にないと思います。

梅については、正門を過ぎてすぐの左手に白梅、右手に紅梅があることを皆さんは知っていると思います。また、65期生の卒業記念として紅白の梅が学夕会館の西側に植樹されました。中庭の東側にも紅白の梅が並んで植えられています。

松の木は、学夕会館の東側にあり美しい樹形の姿を見ることができます。

次に、メタセコイアという落葉樹です。本校の中庭には現在、創立50周年記念(1956年)に植樹されたものを含め、4本聳えています。この木は学校や公園などでよく植えられている樹木ですが、よく知られるようになったのは第二次世界大戦後のことです。大阪市立大学の三木茂博士が化石の研究から新種の植物で絶滅種として発表され、その後中国で現存していることが分かりました。化石から復元された特徴が現存している木で確認されたことで有名になり、「生きている化石」として知られるようになりました。今は中国にある木の種子や挿木から育てられたものが世界各地で植えられており、広く人々から愛されています。実は、三木博士のもとでメタセコイアを研究された研究者の一人が夕陽丘高校の生物科教諭 引田茂先生だったので(本校勤務 1944年から1975年)。そのようなことから、本校のメタセコイアはまさに本家本元だと言っていいでしょう。

本校に特に縁のある樹木を紹介しましたが、卒業生の皆さん一人ひとりにも思い出深い樹木があると思います。10年後、20年後、50年後に母校を訪れたとき、それらの樹木がどのようなになっているのか、楽しみにしてください。



(中庭の梅)



(同窓会館前のメタセコイア)

発行 〒543-0035 大阪市天王寺区北山町 10-10 大阪府立夕陽丘高等学校

TEL 06-6771-0665 FAX 06-6771-6267 E-mail: z-yuhigaoka@sbox.osaka-c.ed.jp

ホームページ <http://www.osaka-c.ed.jp/yuhigaoka> (題字 森 敏行先生)

【第三学年】より

卒業

～たくましく、しなやかに、躍動せよ！～

学年主任 岩元 健

66期のみなさん、卒業おめでとう。小学校、中学校に継いで3回目の卒業ですね。66期のモットー「躍動する66期～たくましく、しなやかに～」をきみたちはこの夕陽丘で実践できましたか？夕陽丘高校66期生として卒業するに際して、きみたちには学校を卒業するだけでなく、もう一つ何かを卒業してほしいと思います。比喩的な言い方になりますが、窮屈な冬の外套を脱ぎ捨てて、もっと身体をのびのびとさせ、さらなる成長を遂げて躍動してほしいと願います。

卒業には、当然ながら別れがあり、その後の新たな出会いがあります。自分の置かれる環境・世界も変わります。その変化は、小学校から中学校へ、中学校から高校へ、更に高校から次の学校や職場へと進むにつれより大きくなっていきます。今まで仲の良かった友だちとの別れがあり、慣れ親しんだ環境が変わり、新しい出会いに戸惑う。誰もが多かれ少なかれ不安を感じながら新しいステージに立つことになります。

きみたちは夕陽丘高校をこれで卒業しますが、これから先も人生にはいろいろなことからの卒業があります。卒業はいかなれば人間的成長のための脱皮です。弱い自分からの脱皮。鈍感な自分からの脱皮。無知を脱皮し分別へ。未熟を脱皮し成熟へ。それぞれの年代にそれぞれの脱皮があります。これをうまく経ることで、我々人間は大きくなっていきます。高校を卒業するあたりまで、この脱皮がうまくできるような環境を作るのが親の仕事であり、教師の仕事でした。でも、高校を卒業したこれから先は、自分自身で脱皮していかなければなりません。しかし、時には一人では上手く出来ずに誰かの助けが必要な時もあるでしょう。それを助けてくれるのは、家族であったり、友だちや先輩であったりするでしょう。そこで大事になってくるのが、様々な出会いです。だから人間はいつでも新しい出会いを求めて外へと漕ぎ出さなければなりません。出会いは何も人だけではないでしょう。自然との出会いもあります。修学旅行で経験したような異文化との出会いもあるでしょう。考えればいくらだって出会いはあります。そんな出会いを生かすためには、常に自分の感性を瑞々しい泉にしておく必要があります。無知な自分を恥じ、不安を蹴散らして、これまで経験したことのない刺激をどん欲に求めていく姿勢が大切です。そうすればきっと何かが音を立ててはじけ飛ぶことがあるに違いありません。重かった腰が軽くなり、萎えていた感性がピーンと背筋を伸ばす。生きる希望が湧いてくるに違いありません。

これから先、色々な課題が出てくることでしょう。でも、少々の困難に負けることなく、逃げずにチャレンジする勇気を持ってください。諦めて何もしないのは実に勿体ないことです。

「難題の無い人生は『無難な人生』。難題の有る人生は『有り難い人生』。」これは、ソチオリンピックモーグル種目で惜しくもメダルは逃しましたが、堂々の4位に入賞した上村愛子選手の友達の言葉だそうです。オリンピック代表、そして、4位となるまでには非常に苦しい時やつらい時がいっぱいあったと思います。それを乗り越えて頑張ってこられたのも、もちろん本人の力もありますが、様々な出会いの中でいい仲間にも恵まれ、支えられたからでしょう。そんな友達からの言葉です。この言葉に励まされ挫けず、チャレンジできたのです。66期のみなさん、これまでの出会い、そして、これからの出会いを大切にして、それぞれの世界で元気に、益々躍動して、活躍されることを願っています。



【第二学年】より

67期 グアム修学旅行とこれからの進路実現のために

学年主任 諸正 邦彦

67期の修学旅行は当初、香港・マカオ・深圳を予定していましたが、諸般の事情で香港・マカオに変更し、合わせて旅行内容も変更せざるを得ませんでした。ところが、鳥インフルエンザ等の発生を受け、香港・マカオから台湾に再度の変更を余儀なくされ旅行内容を全て変更するという事態になりました。ところが、台湾においても大陸から帰国された方が鳥インフルエンザを発症し三度（みたび）旅行先を変更することになり、最終的に「グアム」に決めました。この間の過程については、保護者集会や文書配付等でお知らせしてきました。当初日程は10月下旬を予定していましたが、グアム1月の乾期にチケットが取れました。しかし運行している航空会社の航空機が小型機であるため8クラスを前班4クラス、後班4クラスの2班編制にしました。また航空機に搭乗するのも2クラスずつとしなければならず、前班4クラスをデルタ航空2クラス、ユナイテッド航空2にクラス、後班も同様の編成での関空出発となりました。

この時期は前述しましたが、グアムは乾期ということで「紺碧の海」「青い空」「星々輝く満天の夜空」を楽しみにしていましたが、現地の人も驚く15～6年ぶりの悪天候でした。しかし学校交流やマリンスポーツの時には、かろうじて晴れ間も現れ、生徒達はそれぞれ現地生徒との交流やマリンスポーツ各種目を、晴れ間を慈しむように楽しんでいました。今回の修学旅行は天気にも恵まれたわけではありませんが、生徒達の旅行中の表情をみていれば、学校とは違った意味で、生き生きとした活力溢れる様子が見て取れました。生徒達も満足のいくものであったと思います。このような形態の旅行は上級学校に進学すれば無く、ある意味人生最後の旅行体験をしたわけで、この旅行が生徒達の夕陽丘高校での善き思い出の一つとなり、旧友集まれば何時までも語られる修学旅行であって欲しいし、それだけ大切なものとして心の中に息づかせて貰いたいと思います。



さて、修学旅行も無事終了し、3年生になる67期の生徒諸君は、この春休みをどのような気構えで迎えようとしていることでしょうか。いよいよ進路実現のために本気で頑張らなければならない時期に来ました。上級学校入試は、高校入試と本質的に違います。上級学校の進路選択が卒業後の職業選択にかかわってくるからです。単に大学に行きたい、専門学校に行きたいでは、将来の職業選択についても無目的になってしまい、進学の意味を希薄なものにしてしまいます。しっかりとした目的意識を持って、これが学びたいからこの大学のこの学部この学科へという、確固たるものに基づいた進路選択を願っています。選択が出来たら次は、入学するための学力の伸長です。67期では、土曜日講習として毎週「国・英・数」の各教科が8時30分から開始されています。講習と並行して夕陽丘セミナーという自学自習の場を活用している生徒もいます。もう動き出し進路実現に向けて一步一步進んでいる仲間がいるということを知って欲しいし、知ったならば「私」は今何をしなければならないのか自問自答し、進路実現のため実行して欲しいと思います。上級学校の試験は「甘い」ものではありません。しかし多くの生徒諸君は、まだまだ動いていません。このような言葉を耳にすることがあります。「やったら出来る」これは「しなければ出来ない」ことの裏返しです。「しなければ出来ないのです」誰のため？何のため？自分のため、自らの内なる世界を鍛え、自らすそ野を広げ、知らない世界を知るため、自らを高めるため、自らの進路を達成するために動き出さなければなりません。短絡的な考えで「これは必要、これは不要、優先順位はこう」ということをいうのは自ら学ぶ芽を摘んでしまうことになります。「無用の用、用の美」です。学問の世界に「要・不要」ありません。

真摯に真面目に懸命に努力し頑張っ、学習に励んで欲しいと願っています。67期の入試まですでに1年を切っています。体調を管理し健康に気をつけ1日1日を大切に「しなければならぬことを誠実に実行する!」「学問に王道なし」です。67期生の頑張りに期待しています。単に「する」のではなく「やり抜いて下さい」

いよいよ最終学年です。「日常六心」を日々の実践にです!

「はい」という素直な心
「私がします」という奉仕の心
「有り難う」という感謝の心
「すみません」という反省の心
「お陰さま」という謙虚な心
「他者」を受け入れ認める慈愛の心

追記

修学旅行の生徒達の様子は、PCの場合は、学校のホームページ・トップ画面の下部「夕陽丘高校からのお知らせ」の所に「67期グアム修学旅行」のフォルダがありますので、そこをクリックして是非ご覧下さい。

【第一学年】より

『休眠打破』

学年主任 井上 恭

今日は2月14日。珍しく大阪にも雪が降り、窓の外は雪景色です。校門横の桜の木にも雪が積もり、花のつぼみは冷たくて震えているようです。こんなに冷たくても春になれば花は咲くのでしょうか。

春、咲き誇った桜の花は1週間ほどで散ってしまいます。そのあと、葉のつけ根に腋芽(えきが)ができます。この腋芽は花の芽になるものと葉の芽になるものに分かれ、花の芽は10月頃にはおしべやめしべを備え、構造的にはすぐにでも花を咲かすことができるようになっています。でも、すぐに咲くことはありません。葉で作られた成長抑制ホルモンが花の芽に送られ、休眠状態になるからです。ところが、冬の寒さにより花の芽の成長抑制ホルモンはしだいに壊れていきます。低温状態が続き、このホルモンがほとんど壊れてしまったとき、花の芽は目覚めます。これを『休眠打破』といいます。その後、春になって20℃近くまで気温が上昇するようになると、桜の花は咲くのだそうです。

学習にもこれに似たところがあります。学習を始めた頃というのは、計画的に学習が進み、自身に充実感もあるため、この調子なら受験勉強といえども恐れることはないと感じられます。ところが、しばらく続けているといずれ必ず頭打ちの時期を迎えます。学習に時間をかけているのに内容が理解できなかったり、成績が上がらなかつたりという時期です。桜の花でいうと休眠状態でしょうか。しかし、そこで挫けることなく学習を継続していると、突然ぐんと伸びる時期を迎えます。理解力も応用力も飛躍的に伸びる時期です。いわば学習での目覚め、『休眠打破』です。学習は進み、実力も飛躍的に上がっていきます。ちょうどその頃に受験シーズンを迎えることができれば、希望する進路においてもよい結果が出てくるのではないのでしょうか。

さて、1年生の皆さん、入学後1年が過ぎようとしています。学習習慣は確立できていますか。継続的に学習を行っているといずれ必ず頭打ちの時期がやって来ますし、それに耐えて学習を続けていると『休眠打破』も訪れますが、学習を始めるのが遅いと『休眠打破』がやって来る前に受験シーズンを迎えることになってしまいます。目の前の定期考査のためだけの勉強をしていたり、勉強は3年になってからとまだ学習を始めていなかったりという人には、受験シーズンに至っても『休眠打破』は訪れず、夢の実現は程遠いものとなってしまいます。継続的な学習は早くから始めることが肝心なのです。

すでに学習習慣が確立している人はそのまま継続してください。いずれ『休眠打破』が訪れることでしょう。まだ確立していない人は今からでも学習に臨み、努力を続けるようにしてください。遅くはなりましたが、努力を積み重ねれば必ず運命の女神は微笑みます。そうして、どちらの人も68期生のスローガンである『燦』然と輝く未来を手にしてほしいと思います。

【進路指導部】より

◇ 行事報告 ◇

* 1年「進路講演」

10月31日（木）ヴィオーラホールで進路講演会を実施しました。今年はリクルートから植村さんをお招きしました。高校1年生がこの時期に心得ておくべき様々なことを多彩な表現でわかりやすく語って頂きました。多くの生徒は集中して話を聴いており、全体としては有意義な講演会でした。

* 1年「進路体験セミナー」

11月7日（木）、HRの時間を使って、勤労観・職業観を育成することを目的に「進路体験セミナー」を実施しました。実際の進学先である大学の視点から、その学部で学んだ人がその後どのような職業につき、どのような形で社会人として活躍しているのかをテーマに、各大学の方から話をいただきました。

講師の先生方には、その職業の詳しい説明をしていただいたり、なぜその道に入ったか、入ってから苦勞や努力されていること、やりがいを感じていることなどを話していただいたりしました。

* 2年「進路講演」

11月7日（木）「大学入試の現状と今後の学習」というテーマで元河合塾の鞍下先生にお話していただきました。今、全国の高校生の学習時間が少ないこと、またそれ故に今頑張れば志望校が近づくこと、就職率のことなど、具体的なデータを示しながらわかりやすく話して下さり、生徒達も真剣に聞き入っていました。

* 2年「卒業生を囲む会」

67期2年生に、文、外国語、教育、理工、食物栄養、薬学など9分野に計26名の卒業生（65期生）をお招きして、今の大学生活や、今どんな勉強をしているか、高校のときにどんな準備をしたか、進路選択をどうして決めたかなど様々なお話をして頂きました。各分野には、希望によって10数名から50名以上の生徒が別れて聴かせてもらう分科会形式です。

できるだけ親近感を持ってもらおうと、生徒が司会をする形式ですすめました。最初はお互い緊張して本音の話を引き出せませんでした。しかし、時間がたつにつれて卒業生の本音の話がでて、生徒は様々な質問をして、真剣に聴き入っていました。

普段、進学後の生活などを聞けるのは、大学のオープンキャンパスに行つて大学の人からです。それもいいのですが、視点は大学を卒業した人の視点ですし、多少の宣伝も混ざっていることを考慮しないといけないかも知れません。しかし、実際に大学に行っている2歳年上の先輩の話は、それらとはひと味違う皮膚感覚のあるお話でした。

快く参加して下さりました卒業生に感謝申し上げます。



【保健部】より

健康生活を維持するために

— 果物の持つ効能について —

冬期オリンピックが、ロシアのソチで開催された。熱戦が繰り広げられる中、話題の焦点となったのはメダルの数と種類であろう。

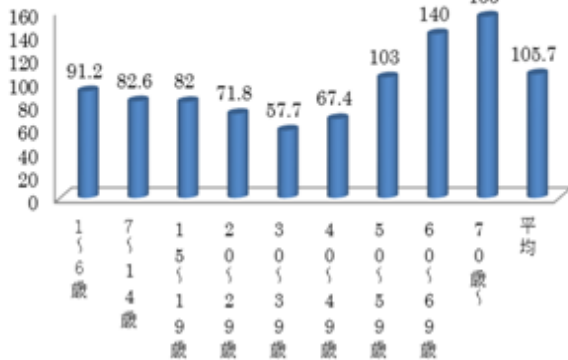
「朝の〇〇は金、昼の〇〇は銀、夜の〇〇は銅」と食物のとり方について、古くからの諺がある。〇〇に入るのは、「果物」。

今回の話題は食生活のうち、「果物」の効能について考えてみたい。果物には、ブドウ糖、果糖、ショ糖の3種類の糖分が含まれている。脳のエネルギー源はブドウ糖のみで、睡眠中に消費されたブドウ糖をできるだけ早い時点で効果良く摂取し、活力ある1日を送るために、そのスタートとなる朝食で果物を十分に摂り、失われた有効成分を速やかに補給すると効果的である。また、果物には水分や爽やかな食感を与える有機酸が多く、朝でも食べやすい上、唾液の分泌を促進させて食欲の増進にも役立つとともに、果物のもつ香り、色等が慌ただしい朝に精神的なゆとりを与えてくれるので、1日のうちで特に朝果物を摂ることは多くのメリットがある。

左のグラフは平成23年度国民健康・栄養調査から、年齢別に果実類（いちご、すいか、メロンを含む）を1日にどれくらい摂取しているかを示している。高校生段階の15～19歳は、1日に82gで少ないといえるが、20～40歳代の摂取量が1人1日50～70gと極端に少ないことがわかる。下記に1日200グラムの果物を取ることがバランスよい食生活には必要であると書いたが、これからすると、日本人のどの年齢層も果物の摂取が不足していることがわかる。

平成17年、厚生労働省と農林水産省が「食事バランスガイド」という逆三角形のコマの絵（下図）によって、1日あたりどのような食品をどれだけ食べたらいいかを示す。主食、副菜、主菜、牛乳・乳製品、果物の5グループの料理を組み合わせることでバランス良くとれるよう、それぞれの適量をイラストで分かりやすく示されている。この中で果物は、毎日の食生活に欠かせない食品と位置づけられ、1日2（みかんなら2個程度）食べることが目安になって

年齢階級別の果実類の1人1日当たり
り摂取量 (g/日)



SV(SVとは食事の提供料の単位)、おおよそ200g (男性では3SV、みかんなら2～3個)

平成25年度から「健康日本21(第2次)」が開始され、果物と野菜について、生活習慣病予防の科学的根拠を示し「野菜と果物の摂取量の増加」を食生活・栄養の大きな目標に掲げている。科学的根拠として「体重コントロール＝肥満対策に重要な役割がある」「循環器疾患、2型糖尿病(食事や運動などの生活習慣が関係するもので日本人の95%以上はこのタイプ)の1次予防に効果がある」「野菜・果物は消化器系のがん、果物は肺がんに予防的に働く」

*みかんの効果にはすごいものがある

最近、β-クリプトキサンチンということばを聞いたことがあるかもしれないが、β-クリプトキサンチンはみかんに特に多く含まれる橙色のカロチノイド色素でプロビタミンAの一つである。最近、がんを始め種々の生活習慣病予防効果に関する次のような研究成果が報告されている。

食事バランスガイド

あなたの食事は大丈夫？



- ・みかんを高頻度に摂取している人では、糖尿病、高血圧、心臓病、痛風の有病率が有意に低い。
- ・血中β-クリプトキサンチン濃度が高い人（みかんをたくさん食べている人）は動脈硬化、インスリン抵抗性（インスリンの働きが悪くなる状態で、糖尿病や動脈硬化の危険因子となる）及び喫煙者でのメタボリックシンドロームのリスクが半分以下であった。
- ・閉経後の女性で血中β-クリプトキサンチン濃度が高い人は骨密度が高かった。
- ・β-クリプトキサンチンとイノシトールを強化したみかんジュースを用いたヒト試験で、ウイルス性肝がんの発生を顕著に抑制した。
- ・果物摂取は骨密度に良い影響を与え、β-クリプトキサンチンやくだもの摂取量が多い女性ではうつ傾向が低く、認知機能が高い。

*みかんは袋ごと食べるのが体にいい？

みかんの袋は「じょうのう膜」といい、食物繊維とヘスペリジンなどのフラボノイドを豊富に含んでいる。食物繊維には水溶性のペクチンが多く、血糖値上昇抑制や高脂血症を予防する効果が知られている。また、ヘスペリジンは抗酸化作用、抗炎症作用、抗アレルギー作用などがある。したがって、袋ごと食べれば健康効果が高まる。

*果物はダイエットに最適

果物に豊富に含まれている食物繊維は、もともとエネルギーが少ない上、水分を含んで膨張することから満腹感を与え、他のエネルギーの高い食べ物の食べ過ぎを押さえることができる。また、胃や小腸内で粘性を持つことから、脂肪や糖質の吸収を抑制したり、吸収スピードを緩めたりするため、血中脂肪やコレステロールが上がりにくくなる。

*本校の実態からみて、体調不良を改善するためには

年間を通じて本校の保健室来室者の主訴の多くが「頭痛」「腹痛」である。高校生の頭痛の多くは、肩こり等に代表される「筋緊張性頭痛」、体質的な「片頭痛」、睡眠不足によるものや風邪の症状等があげられる。

「腹痛」については、「冷え」、ウイルス性感染症（ノロ、ロタ）、食中毒、食べ過ぎ等の原因の一つに「便秘」があげられる。

便秘予防において問題視されているのは、食の欧米化である。肉類や動物性脂肪のとりすぎはエネルギーの過剰摂取による肥満を招くばかりでなく、食物繊維不足になる。食物繊維は、便のカサを増したり、腸を刺激したりすることで、ぜん動運動を促すとともに水溶性繊維は腸内有用菌を特異的に増殖させる、健全な腸内環境を保ち、スムーズな便通を迎えることが可能になるということは、腹痛の症状を改善できることが期待できる。

朝に果物を食べることは、学習効果を高めて、気分を明るく保ち、不快な便秘からくる「腹痛」からの回復につながる。

毎日の健康のために、1日果物 200g、みかんなら 2個食べることを意識してみるのはどうだろうか？



【国際交流委員会】より

昨年9月より国籍を異にする4人の留学生が本校で学んでいます。そして4月より新しく二人の留学生が加わります。日本で学ぶ目的や理由は様々ですが、将来は出身国と日本の架け橋になってくれると信じています。また4月16日にはオーストラリアの International Grammar School（私学の男女共学校）が音楽交流を目的に来校します。（詳細は国際交流新聞に載せていますので、グアム修学旅行の記事と合わせてご覧ください）皆さんにはこのような様々な国際交流活動から良い刺激を受けてほしいです。

現在世界人口は増えていますが、日本は高齢化、少子化が進んでいます。時代は不透明、不安定、不確実ながら、技術は発達しどんどん多様化していきます。このグローバル化する世界で日本はアイデンティティを主張しながら世界に打って出ないといけません。皆さんには好奇心旺盛に柔軟な精神で世界に目を向けてほしいです。一人一人がより高いゴールを目指して、失敗をしてもその中から学んで、新しい何かを見つけてほしいと思います。

【音楽科】より

～音楽科は来年度、設置されて20年目を迎えます～

音楽科は、平成7年に現在の校舎が新設された時に設置されました。もともと、夕陽丘高校は女学校だった時代から音楽が盛んだったと言われており、その伝統は音楽が大好きな生徒と先生によって共学となった現在まで受け継がれてきました。

来年度、音楽科は設置されて20年目を迎えます。その記念として、7月26日(土)いずみホールで〈音楽科20周年記念演奏会〉を催す予定です。ピアノやヴァイオリン、マリンバの独奏や独唱など音楽科卒業生が演奏します。

20周年という節目を迎え、これまでを振り返ると同時に新たな未来へ発展していきたいと思っています。

♪主な音楽科行事報告♪

12月15日：きたやま苑でボランティアコンサート

《きたやまの音楽会》に2年生有志が出演

12月22日：《第5ブロック音楽会》に1年生が

和楽器演奏で出演

12月25日：大阪府教育センター 《ランチタイムコンサート》に

合唱有志が出演

2月1日：第155回ピッコロコンチェルティスタ

2月8日：音楽科3年生演奏会



♪これからの行事♪

3月6日(木) 特別公開講座「クラリネットの魅力」14:00～15:00

ドイツでのオーケストラ演奏活動など、豊富な音楽経験を持つクラリネット奏者の青山秀直氏と他2人のクラリネット奏者とピアニストをお招きし、ソロの演奏やアンサンブルそして講話をお楽しみいただきます。夕陽丘高校の皆さんなら誰でもヴィオーラホールに聴きに行くことができます。お気軽にご参加ください。

【国語科】より

～第十九回「前田純孝賞」学生短歌コンクール～

前田純孝(まえだ すみたか)は、翠溪(すいけい)と号し「東の啄木、西の翠溪」と言われるほどの歌人でしたが、肺結核により三十一歳で亡くなりました。彼が本校の前進、大阪島之内高等女学校教頭であった関係から、毎年一・二年生全員の作品を応募しています。今年度は、このコンクール最高の賞である「前田純孝賞」をはじめ、多くの賞を獲得しました。入賞作品の一部をご紹介します。

前田純孝賞・・・ 変わらずに優しく笑う君がいる泣きそうなほど大事な時間・・・ 前川光月
新温泉町長賞・・・ ジリジリと夏の太陽に照らされて光りかがやく金管楽器・・・ 田中楓花
新温泉町長賞・・・ 大淀川鯿が元気に跳ねていて夜になってもまだ跳ねていた・・・ 一色竜次
新温泉町教育長賞 着慣れない浴衣で出かけた花火大会大きな花火が空に上がった・・・ 石塚茉奈
新温泉町教育長賞 ケガをして置いていかれたあの夏に諦めるなど声が聞こえた・・・ 成松亮信
神戸新聞社賞・・・ テスト勉強「もうやってるの？」友が聞く「まだ」と答える寝不足の私 池内光流

今後の予定

3月1日(土) 卒業式

3月20日(木) 終業式

3月4日(火) 後期末考査終了

3月24日(月) 新2・3年教科書販売

3月7日(金) テスト返却

3月26日(火) 新1年教科書販売

3月12日(水) 後期選抜学力試験

***3月12日(水)～14日(金) 登校禁止**

3月19日(水) 後期選抜合格発表

***3月15日(土)～19日(水)・24日(月)**

校舎内立ち入り禁止